

三浦市立初声中学校

研究テーマ：主体的に学ぶ子 ～主体的な学びにつながる授業づくりを目指して～

1 実践の目的

一小一中である初声地区のよさを活かした小中連携教育を進める。そうすることで、児童・生徒がやや主体性に欠けるという小中共通の課題を克服し、研究テーマの具現化に繋がると考えた。

具体的には、次の取組を実施し、小中の児童・生徒間交流や教職員間の連携を図った。

- (1) 乗り入れ授業
- (2) 児童・生徒交流
- (3) 小中合同研究会・研究授業
- (4) 小中合同避難訓練

2 実践の内容

(1) 乗り入れ授業

中学校の教員が小学校に出向き、授業支援や特別授業を実施した。昨年度まで理科・保健体育・数学（算数）・国語の授業を実施しており、今年度は数学（算数）、社会で実施した。

(2) 児童・生徒交流

初声中学校では「ピンクシャツ運動」についての取組を生徒会執行部主催で行っている。今年度は新入生説明会にて、初声小学校6年生と一緒にピンクシャツのキーホルダー作りを実施した。

(3) 小中合同研究会・研究授業

昨年度の小中合同研究会にて、「初声の子どもたちの実態把握」と「育てたい力」について意見交換をした。そして、「育てたい力」として次の3つにまとめた。

①自分の考えをもち、友達と伝え合い、互い

に高め合う力

②自分の学び方を振り返り、次の学びにいかす力

③基礎・基本の定着

今年度は、これらの力を育むための授業の取組について検討した。研究授業を実施し、小中間で互いの授業実践を見合い、連携を図った。

6月に中学校が研究授業を行い、10月に小学校が研究授業を行った。育てたい力①②のどちらかの取組を実践し、グループごとに研究協議を行った。

育てたい力①については社会（1年）、理科（2年）、社会（3年）、育てたい力②については英語（1年）、技術（2年）、理科（3年）で研究授業・協議を実施した。また、育てたい力③については研究協議の中で意見交換を行った。

(4) 小中合同避難訓練

これまで小中別々に避難訓練を実施していたが、実際の災害を想定し、合同での実施を試みた。

3 実践の成果と課題

(1) 乗り入れ授業

これまでの取組の中で、中学校入学前の児童の様子を知ることができ、児童・生徒指導に結びつくこと、入学後に知っている先生がいることで生徒の安心感が増すことなどの効果が期待できた。一方で、教員の時間調整など運用面の課題があり、今年度は1学期しか実施できなかった。

(2) 児童・生徒交流

生徒会執行部による「ピンクシャツ運動」の授業を行い、初中版ピンクシャツのデザインを考えた。その後、新入生説明会にて中学1、2年生と小学6年生とで交流し、デザインの描かれたピンクシャツキーホルダー作りを実施した。

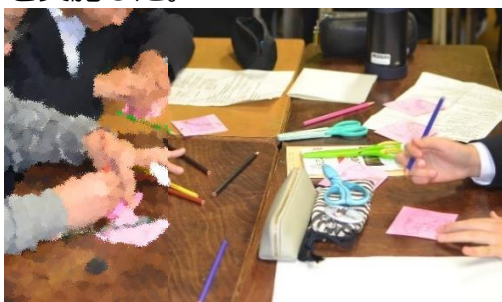


図1 キーホルダー作りの様子



図2 ピンクシャツキーホルダー



図3 各学年に配布

中学生が小学生に教える場を作ることができ、小学生は今後入学する中学校の様子や先輩たちの様子を知ることができ、双方にとって貴重な機会となった。

(3) 小中合同研究会・研究授業

育てたい力①「自分の考えをもち、友達と伝え合い、互いに高め合う力」について、主に授業の組み立て方や、グループでの話し合

い、全体での意見共有の使い分けなどの工夫を提案する授業を実践できた。

育てたい力②「自分の学び方を振り返り、次の学びにいかす力」について、主にワークシートの工夫、教師の問いかけによるワークシートの取り組ませ方などの工夫を提案する授業が実践できた。

育てたい力③「基礎・基本の定着」について、研究協議の中で、中学校の各教科の専門的な視点からの取組を紹介するなど意見交換ができた。

研究授業・研究協議を通して、小中それぞれの教職員が交流できる場となった。

(4) 小中合同避難訓練

感染症の流行により学級・学年閉鎖と重なったため、今年度は実施できなかった。

4 今後の展開

(1) 乗り入れ授業

運用面での課題が見られたため、実施の方法を改善していく。

(2) 児童・生徒交流

引き続き交流の場を設定していく。生徒会活動、新入生説明会の他にも、行事等での交流も検討していく。

(3) 小中合同研究会・研究授業

初声地区の子どもたちの実態把握、育てたい力について小中での共通理解が図れた。実施の回数や内容については検討していくが、来年度も合同の研究会を実施する。

(4) 小中合同避難訓練

今年度は実施できなかったが、実際の災害を想定して合同の避難訓練を実施していきたい。

児童・生徒への効果と運用面での課題を踏まえ、持続可能な小中連携教育を目指していく。